

2015年度 第2回 静岡市多文化共生懇話会 会議録

1 日 時 平成27年12月4日(金) 19:00~20:30

2 場 所 静岡市クリエイター支援センター

3 出席者 多文化共生懇話会委員11名
王川絹子、小田エリーザ、烏仁、カイン モン イー、申 泰子、高畑 幸、土屋 真理、
デレゲルチチグ、ニアズ アハメド、朴 政浩、吉野 恵津子

市民局長、市民局次長、事務局、静岡市国際交流協会

4 傍聴者 1名

5 次第 (1)開会

(2)意見交換

「日本人住民と外国人住民の皆さんが、ともに暮らしていく上での外国人
の生活上の問題」について

(3)事務局から

(4)閉会

6 会議内容

○土屋会長

それでは、議題に入ります。「日本人住民と外国人住民の皆さんが、ともに暮らしていく上での外国人
の生活上の問題」について、まずは1人1個ずつお願いします。今日は、ニアズ委員からお願いします。

○ニアズ委員

いろんな面で様々な問題があります。私たちが来日した時と、今の人たちの問題は全然違うと思う。
昔はバングラデシュ人はとても少なく、バングラデシュの先輩や仲間を見つけることは大変だった。今
は異なり、学校の先輩や仲間を近くに見つけることができ、先輩たちに色々な情報を教えてもらえる。ま
た日本語や静岡について、ゴミの出し方とかも気軽に聞けて、早く覚えることができる。他にも、静岡に
留学したら自転車があるととても役立つ。公園とかで練習してから自転車に乗る人もいるけど、日本の
自転車に乗るルールは最初全然知らない。日本語学校でも指導はあるけど、来日する前に、静岡市で
は自転車の移動が便利で有効な手段だと伝えられたら、事前に準備や学習ができる。日本語学校や市
のホームページとかで事前に静岡の生活について広報できたらもっといいと思う。

よしのいいん
○吉野委員

日本語を支援している立場から日本語指導について、来日間もない方たちに行政がもう少し手をさしのべていただきたい。ドイツやオーストラリアはワーキングホリデイでも一ヶ月ぐらいの間は夜間に無料で英語やドイツ語を勉強できる場所があるそう。言語が何もわからない状態でも来日する人もいる。日本人と結婚したお子さんなどで、全く日本語が分からず、学校に行かずにそのまま家にいるということもある。幼稚園から入った子は日本語の上達が早い傾向にあるが、小学校では学習の言葉もあり、かなり多くの子が苦労していて、私たちは助けてあげたいと思う一方で、なかなかスムーズにいかない。学校側が外国人生徒に拒絶反応を示しているのかもしれない。実際に、来日して二ヶ月ぐらいの子が中学に入ったのを知っているが、学校から全然声がかかってこない。市教委からの声がかかれば、私たち団体の講師がすぐ支援に入ることができる。現在、私たち教室の土曜コースに来ているけど、ほとんど言葉がわからない状態だから本人は学校でも相当困っていると思う。日本語がわからず来日し、小中学校に入っただけ、学校側も本人も困っているという現実を、ちゃんとキャッチできる場所というのはどこなのでしょう。

おうかわふくがいちろう
○王川副会長

教育委員会では、外国人生徒を支援する体制がある。

よしのいいん
○吉野委員

そう、あるけど、その支援が実際には行き届いていない。実際、私たち教室に来ている児童はほとんど日本語ができないのに、学校や市教委からは全く要請がないが、このように本当に助けを求めているところへ行きたい。私たち日本語を教える会は、交通費として300円を講師に支払っている。学校に行く際は学校か親が100円、私たち団体が100円、残りの100円は国際交流協会からの助成金。先日この子の親と話しましたが、母親が全額の300円出すから学校に来て、わからない授業の時には側で日本語の指導をしてほしいと頼まれた。その学校の校長先生は、「学校の貸出しはおかしい、場所は自分の家でやってほしい」と、とても頭が固い先生だった。結局この日本語を教える話はなくなってしまったし、こういうことはよくある。算数や英語の授業は比較的理解できるが、国語や社会はとても難しい。静岡市では、日本語を教える教室をそれぞれの区の市民活動センター等でやっているが、そうすると親が仕事をしている小さい子は一人で行くことが出来ない。学校側や市教委が、その子をサポート出来ていれば問題ないが、そのまま放置しているようなところもあり結局授業についていけない。日本語を教える回数は一人10回までと決まっているが、10回で言語は覚えられない。中には、熱心な先生もいて素晴らしいサポートをしてくださっている。ルールだと10回、20回できっちり終わりになるが、日本語をしっかり身に付けてもらうためにせめて一年間ぐらいの期間がほしい。日本語がわからないから家から出ず、閉じこもっているという話もきく。入管や行政では、来静した方がわかると思うので、まず日本語の出来ない人たちには、日本語を覚えてもらうための支援を紹介してあげてほしい。静岡はSAMEで日本語を教える場所が確保されているけど、清水の場合はないので、清水区役所の空き部屋をそのような場として提供してもらえると嬉しい。何よりも、生活していくために日本語を覚えるということをしていただきたいの

で、そのサポートをお願いしたい。

○SAMESAME職員

清水区役所では、過去に臨時的ではあったけど生涯学習施設が使用できない時に使っていた。区役所の空き部屋を、常時貸出しということは現実的に難しいと思う。

また、日本語が全く分からない生徒がいる場合は市教委では、指導方法として通級か学校訪問のどちらかを選択出来ることを伝え、外国人生徒を担当している先生がとりこぼしのないように、指導体制をとっている。

○朴委員

自分は在日の3世で、先人たちはおそらく100年前に日本に移住し生活を始めている。当時の自分達の祖父は、日本語の習得に大変苦労し、騙された経験もあったと聞いている。日本語を習得するというのは、ニューカマーについては死活問題、またはそれに近い問題である。個々で日本語を学習する、または自分で学校を探さなければならないということが課題。また、学校に通うことの出来ない人たちのように把握することができるのかも、大きな問題だと思う。田辺市長がいうように、今後は静岡市の人口減少化の問題もある中で、外国人も入れていかないと政令市として安定した人口を保つことができない可能性もあり、労働力として外国人の力も必要になってくるだろう。以前浜松にあった事例で、在日ブラジルの子は日本語がとても上手だったが、親御さんは日本語をほとんど話せないという。市役所等の行政が、ポルトガル語、英語、中国語等の多言語対応をすることは必要だけれど、日本語を学べる環境の整備が、大切で必要なことだと思う。ニューカマーの方たちが日本語がわからないばかりに、様々なトラブルに巻き込まれたり、マイナス面を背負い不利益を被ってしまうような光景を目にすることがある。このような現実を少しずつ変えていく、それが多文化共生だと思う。日本語を習得するための選択肢はいくつかあるが、もっと具体的に考え、政策としてとり入れる必要があるのではないかな。

○デレゲルチチグ委員

留学生の現状をいくつかお伝えしたい。1つ目は、イスラム教徒の留学生、特に東南アジアの女性について。宗教上、髪の毛を隠さないといけないので接客業にはなかなか受け入れてもらえない。また食品製造も豚肉が入っていると出来ないの、アルバイトに就くことがとても難しい。東南アジアの国々は、発展途上国なので国が率先して学費を払い留学させることは滅多にないため、ほとんどの留学生が私費留学をしている。学費と生活費を支払わないといけないが、日本語学校の留学生の場合、学校から奨学金が出ないので、生活費と学費の支払いにとっても苦労している。なので夜間のアルバイトをするしか方法がない。最近日本も東南アジアに進出している企業が増えているので、このような留学生たちを育てたら日本と東南アジアの架け橋になると思う。

2つ目は、外国人が日本で部屋を借りる際、必ず日本人の保証人が必要だということ。学校が保証人になることができない為、保証人が見つからず、部屋を借りる事が困難な留学生が多くいる。こ

のような問題^{もんだい}をどうやって解決^{かいけつ}することができるのか。言語学校^{げんごがっこう}はなぜ部屋^{へや}を借りる時の保証人^{かき}になれないのか。「外国人^{がいこくじん}は信用^{しんよう}が出来ないから、保証人^{かき}が必要^{ひつよう}」だという話^{はなし}を聞いたことがあり、保証人^{かき}がいな学生^{がくせい}は仲介業者^{ちゆうかいぎやうしや}を通^{とお}すので、費用^{ひよう}は少なくとも4~5万円^{まんえん}はかかる。信用^{しんよう}出来ない人^{ひと}もいるのかもしれないが、全て^{すべ}の外国人^{がいこくじん}が信用^{しんよう}出来ないということはないはず。

最後に、市役所^{しやくしよ}での手続き^{てつづ}について。留学生^{りゆうがくせい}は毎月^{まいつき}バイトしていくと、保険料^{ほけんりよう}と市民税^{しみんぜい}が上がっていく。それで支えなくなったら、市役所^{しやくしよ}に行って相談^{そうだん}をし、何カ月^{なんかげつぶん}分かの免除^{めんじよ}や減額^{げんがく}の話^{はなし}が場合^{ばあい}によってできるようなことを聞いた。税金^{ぜいきん}を払^{はら}うべきとわかってはいるが、生活^{せいかつ}が本当に^{ほんとう}厳しいことを伝えると、他^{ほか}のところへ案内^{あんない}され、そこで租税条約^{そぜいじようやく}というものを知り、市民税^{しみんぜい}についての減免制度^{げんめんせいど}を知った。また対応^{たいおう}のことになるが、番号札^{ばんごうふだ}を渡して他^{ほか}のところでも対応^{たいおう}してもらう場合^{ばあい}、その番号札^{ばんごうふだ}を持ってどこで待^{まち}てばいいのかを外国人^{がいこくじん}には、しっかり^{つた}伝えてほしい。

○土屋会長

このような問題^{もんだい}があがっていますが、皆さん^{みな}どうでしょうか。

市役所^{しやくしよ}で手続き^{てつづ}する際の対応^{たいおう}について声^{こゑ}もありましたが、事務局^{じむきょく}いかがですか。

○事務局

みなさん^{みな}の今日^{きょう}の意見^{いけん}を集約^{しゆやく}し、必要^{ひつよう}に応じて各課^{おう}に事実関係^{かくか}を確認^{じじつかんけい}していくし、良^よくなるよう前向^{まえむ}きに対応^{たいおう}していきたい。

○高畑委員

外国^{がいこく}にルーツを持つ子ども^も、または外国^{がいこく}から来た児童^きの就学^{じうがく}・キャリア支援^{しえん}について。フィリピン人^{じん}の親^{おや}を持つ16歳^{さい}から30歳^{さい}までの人を対象^{たいしょう}に全国的^{ぜんこくてき}にアンケート調査^{ちようさ}を7月^{がつ}から行^{おこな}い、現在^{げんざい}に至^{いた}るまで150人^{にん}の回答^{かいとう}を得^えている。フィリピン^{きんねん}では近年^{にほん}、日本^{にほん}に来^きるためのビザ規制^{きせい}が緩^{ゆる}くなってきており、実際^{じつさい}わかもの^{わかもの}のおおら^らいに^ちうちわけ^{うちわけ}ひと^{ひと}、たいし^{たいし}ょう^{ょう}ぜん^{ぜん}こく^{こく}てき^{てき}き^きにおお^{おお}につけい^{つけい}じん^{じん}き^きにほん^{ほん}たいざい^{ざい}いた^{いた}しかく^{しかく}若者^{わかもの}が多く^{おほく}来日^{らいにち}している。内訳^{うちわけ}をみ^みてみると、彼ら^{かれ}の多く^{おほく}は日系人^{にっけいじん}として来^きていて、日本^{にほん}に滞在^{たいざい}する資格^{しかく}はある。しかし^し日本語^{にほんご}があまり^{あま}り話^{はな}せ^せず、日本^{にほん}での生活^{せいかつ}や就労^{しゅうろう}の術^{すべ}や技術^{ぎじゆつ}がわからないので、アルバイト^{あーびんてい}による不安定^{ふあんてい}な生活^{せいかつ}を送^{おく}る人も多^{おほく}い。日系^{にっけい}の若者^{わかもの}が安定^{あんてい}した生活^{せいかつ}が出来^{でき}るように、日本語教育^{にほんごきょういく}や職業^{しよくぎ}訓練^{くんれん}のサポート^{サポート}をできないだろうか。

○申委員

ニューカマーの方^{かた}たちが、地域^{ちいき}にある外国人^{がいこくじん}のコミュニティ^{さんこう}から、参考^{じようほう}になる情報^えを得^なたり、その中^{なか}での交流^{かうりゆう}はよくあり、とても有効^{ゆうこうてき}的^{てき}。しかし、外国人^{がいこくじん}が地域^{ちいき}の町内会^{ちやうないかい}に所属^{しよぞく}したら、防災時^{ぼうさいじ}の情報^{じようほう}やゴミの出し方^{だしかた}、お祭り^{まつ}の情報^{じようほう}等を共有^{きやうゆう}でき日本^{にほん}でもっと生活^{せいかつ}をしやすくなると思う。近頃^{ちかごろ}、一人暮らし^{ひとりぐ}や共働^{ともばたらき}の家庭^{かてい}が増^ふえ、日本人^{にほんじん}でも町内会^{ちやうないかい}に入^{はい}らない家庭^{かてい}が増^ふえてきている。町内会費^{ちやうないかいひ}や、仕事^{しごと}の忙し^{いそが}さが理由^{りゆう}で町内会^{ちやうないかい}離れ^{りな}れが進^{すす}んでいるのかもしれないが、地域^{ちいき}の人^{ひと}と情報^{じようほう}を共有^{きやうゆう}し、お互^{たが}いが知らないことを教え^{おし}合い理解^ありか^りい合^あえるといいのではないか。現在^{げんざい}の町内会^{ちやうないかい}は、日本人^{にほんじん}にも外国人^{がいこくじん}にも敷居^{しきい}が高^{たか}く、親しみ^{した}やすいものではなく^なくなってきてはいるように感じる。誰も^{だれ}が入^{はい}れるように敷居^{しきい}を低^{ひく}くしたら、外国人^{がいこくじん}の方も

町内会に所属しやすく、いろんな面でお互いをサポートできる体制が整うと思う。

○土屋会長

その解決方法は、何があると思いますか。日本人側が外国人に町内会に入ってもらえるように出来ることは。

○ニアズ委員

まずは、最初のきっかけとして町内会から外国人に声をかけるべき。外国人は夜間勤務していることもあるので、声をかけるタイミングを見つけるのは大変だが、「何かあったら連絡してください。」と伝えておくだけでも、外国人は安心すると思う。ゴミの出し方一つにしても、ルールを知らない外国人に対して「あの人は、どうして夜中にゴミを出すのか。なぜネットをかけないのか。非常識な人。」と陰口を言うのではなく、まずゴミの出し方について教えてあげることが大事。「ネットはカラスや鳥対策で、ネットをしておかないとゴミが散らかってしまふ。」など色々教えることはある。ちょっとしたことで、溝が生まれ関係が悪くなるがあるので、町内会がまず同じ地域に住む外国人に声をかけをし、関係を築いていくことが大切。

○小田委員

国と国との文化の違いが大きいと思う。例えば自治会について、日本にはそういった組織があるけど、ブラジルにはない。来日しても、なかなか知る機会がなくわからない。まず地域での生活が始まる前に、自治会や町内会がどういふものなのか、なぜ参加する必要があるのか、参加するとどのようなメリットがあるのか。参加することで日本人、地域の人たちと交流できることを伝える必要があると思う。南米についていえば、出稼ぎで来ている人たちが多く、自治会についてわからない、知らない、忙しいから、時間の無駄のように思ってしまう。やっぱり、組織やメリットをちゃんと伝える必要があると思う。そして、そのためには、朴委員や吉野委員がいったように日本語が必要。日本の生活やルールを理解していくためには、日本語がベースになるのでそこを教える必要がある。地域社会に馴染むようにするためには、外国人は少しハードルあるのでそこを支援する仕組み、体制を整えたい。

○朴委員

そうですね。町内会の話の中にあっただけ、今の町内会は機能しているところと、機能していないところがある。特に一人暮らしをしている人や学生、若い人たちは、隣に誰が住んでいるかわからないなんてこともよくある。全てではないにしても、若い人たちは「周りと関わりたくない、生活に入らないで」という人たちも多くなる。でも個人的には、自治会・町内会は御老人が多いじゃないですか。正直、寂しさを感じている自治会の人たちもけっこういると思う。日本にある言葉で、遠くの親戚より近くの他人じゃないけど、おばあさんが仲良くなった外国人と日曜日によく話をし、という話を聞いたことがある。ただ、この場合日本語が話せるということが前提だけど。町内会側も若い日本人がいないから、そこを埋めるじゃないけど、外国人の方が入れようになつたら外国人にとっても日本人にとってもプラスがあり、今ある課題が解決へむかっていくと思う。

○土屋会長

外国人が自治会・町内会に入れるようにするために、具体的にどうすればいいのか。

○朴委員

その橋渡しみたいなもの、地域と外国人を繋げる接着剤の部分となることを考える必要がある。

○小田委員

地域にいる外国人をどうやったらその地域に活かせるのか。そういう観点からはどうだろう。

○朴委員

小田さんが先ほどいったように、「私は南米から来たから知らない。」「中国では、こうしてきたんだ。」
といっても、日本で生活する以上、そこはもう関係ないところ。ここは日本で、日本に住む以上、日本の
ルールを守りなさい、と言いたい。

○土屋会長

町内会のメリットは何だろう。メリットが明確になれば、アピールもしやすく、多くの人が入ってくれると
思う。

○申委員

そうですね、いいことは沢山あると思う。例えば地震や津波があった時に、生死の確認がとりやすく、
救助にも向かいやすい。家族がいるのかいないのか、素性などを何も把握していなければ連携がとれな
い。今の町内会は若い人が少ないけれど、例えばお祭りだとかそういうことを地域でやり、一緒に盛り上
げていけたらいいのではないかな。

○王川副会長

地域で支え合ってとても素晴らしいこと。外国人で、日本に来て寂しいとか心細い思いを抱えている
時はあると思うけど、お隣さんや地域と交流があると、生活も豊かになり色々な有益な情報が得られるよ
うになる。今あったように、事実として年配の方が多から、日本人でも外国人でも若い方が入ることで、
地域としては大きなエネルギーを得られる。外国人にとってもプラスがあり、お互いに必要な存在だと思
う。

○朴委員

いろんな問題があるけれども、発端はまず、外国人が日本のことを知らない、そして日本人も外国人
の文化や宗教について知らない、ということがある。実際問題、現在多くの日本人がイスラム教徒のこと
恐れ、中には、イスラム教徒がテロをしているという認識をもっている人もいます。間違った認識や知識をも
っている人たちも多い。

2期前の懇話会委員の話で、マレーシアの女性が、「自転車で走っているだけで、職務質問されることがある。でも白人はね、ほとんど警察から質問受けないんですよ」と話していた。差別について議論をするとキリがないけど、知らないことから、人は恐怖心が生まれる。思うのは、日本人だろうが外国人であろうが、被災した時は関係ないし、市役所職員も災害に巻き込まれるわけだから、人と人がやっぱり助け合わなければいけない。日本語がよくわからなかったから、避難所をわからずにいたとか、食事もろくに取れなかったという話がある。実際、こういう話を聞いたということは、死なずに生き延びることが出来たということなので、結果良かったけど、こういったところをどうしたら解決できるのか。そういう大きな課題にも取り組んでいきたい。

○小田委員

大きな枠組みでみると、国籍問わず外国人の多くは、日本の制度や仕組みについて正しく理解をしていない。だから、そこから様々な問題が生じているように思う。

○朴委員

そういうことは、僕ら2世3世のオールドカマーから言わせてもらおうと「郷に入るなら、郷に従う」。なぜなら、今日本に住んでいるから。帰化していないから日本人ではないし、外国人として自分のアイデンティティを持って住んでいるわけだから、他の国にいる以上その国のルールに従うのは当たり前のこと。そういう中で、絶対のツールとして日本語は覚えなければならない。そのベースがないと、就職も難しく食べていくことが出来ない。書けなくても読めなくても、人と話せる、コミュニケーションが取れることが大事。だから、日本語学校が担う役割は大きいけど、民間に対して行政側が働きかけることは非常に難しい。ハードルは高いけど、そういう部分の整備ができるといい。

また、外国人一人一人が努力をしなければいけない問題でもあるので、そこをうまくサポート出来るようにしたい。日本語が出来ないことで、いろんな問題が生まれているのが現実なので、まず日本語を覚える、そこが全てのポイントとなる。

○吉野委員

清水は、比較的町内会に入っていると思う。旧静岡は、あまり入っていないということを知ったことがある。

○土屋会長

カイン委員は留学生ですが、町内会に入っていますか。

○カイン委員

以前、姉と住んでいたアパートでは1階のフリースペースにお祭りの案内や町内会のお知らせがいつも貼ってあり、よく見ていた。ただ、お祭りに参加したいけど、誰に言えばいいのか、どこに連絡すればいいのかかわからず、結果、何も参加できずにいた。なのでもう少しどこに連絡すればいいのか、誰が

ちゅうしん 中心になっているのかをわかりやすく、みな さんか 皆が参加しやすいように工夫くふうをしてほしい。

にほんご がくしゅう 日本語の学習について、ねん 5年いてもまだまだわからないことが たくさん あり とまど 戸惑うこともある。特に にほん 日本独自の文化や風習などは 難しいし、病院での言葉はもっと 難しい。わからないことが原因で問題が起おこるので、にほんご がくしゅう 日本語学習のサポートをもっとしてほしい。

アパートを契約する時の保証人について、日本に来る前は一切そのことは知らなかった。また、携帯は外国人にとって1番大事なツールになるけど、携帯の契約をするのに、クレジットカードを作る必要があり、そのクレジットカードを作るのは簡単でない。アルバイトを見つめるのに携帯電話が必ず必要で、携帯の契約をするまでアルバイトに就くことが出来ず、アルバイトが出来ないと生活がととても厳しくなってしまう。そういう現実があり、来日して最初の手続きで、多くの留学生が困っている。

にほん 日本の手続きの厳しさをとても感じるが、そもそも日本に来たら、こういうことが必要だということを事前じぜんに知らせる必要があると思う。

○土屋会長

じむきょく 事務局は、どう思いますか。

○事務局

けいやく はなし 契約の話は、ぎょうせい 行政の直接的な仕事とは離れているので対応することは難しいが、いぜん 以前、しずおかだいがく 静岡大学では留学生も多く、近辺の特定のアパートでは保証人ほしょうにんを必要としないというようなことを聞いたことがある。

○カイン委員

アパートを紹介してくれる会社かいしゃにいくと、外国人がいこくじんに紹介できる場所は程度ていど決まっています、それ以外であれば必ず保証人ほしょうにんが必要になってくる。学校に近いか、安さを求めると本当に数が限られていて不便ふべんに感じる。

○ニアズ委員

ほしょうにん 保証人について、まず日本語学校では来日した当初とうしょ、必ず保証人ほしょうにんになってくれたり、保証人を見つけてくれる。ただ、せんもんがっこう 専門学校や大学に進学すると、卒業後まで日本語学校はサポートしないので、自分で見つけなければいけない。

○デレゲルチチグ委員

ゆうじん 友人の日本語学校の生徒からも保証人ほしょうにんの問題は聞いたことがある。その人たちは静岡しずおかではないけど、家を借りるのに、仲介ちゆうかいの会社にけっこう高いお金を払っていた。

○ニアズ委員

しずおか 静岡には3つの日本語学校があるが、学校側が薦めるアパートや寮は学校側が権利けんりをもっているから保証人ほしょうにんを必要としない。それ以外のところ、綺麗な部屋や友達とのルームシェアをしたいとなると自分た

ちで保証人をみつける必要がでてくる。

また来日後2年目からは、自分で保証人を見つけたら必要がでてくることもある。ただ、最初からすぐ保証人を見つけなければいけない、ということはない。

○カイン委員

税のシステムがよくわからない。税率は人によって異なり、私はアルバイト時間が少なく給料も多くはないが、多数のアルバイトをしている友人の方が納める税金が少ない。税金のことをよく知らない留学生は多く、わからないことによって支払わない学生も多いと思う。税金は、働いて得た金額によって納める金額に違いがあるようだけど、その仕組みがよくわからない。

○ニアズ委員

問題は、働いている会社の給料の渡し方によって起こっていると思う。会社が振込ではなく、お金を直接渡している場合は、会社が申告していないこともあり、その場合市役所は、その人がお金をどの程度稼いでいるのか、収入があるのかわからない。そこでこういう問題が起きているのではないかと。ただ、これからマイナンバー制度が始まるので、そういうことはなくなると思う。

○烏仁委員

皆さんからいろんな意見がでていますが、町内会について、私が以前所属していた町内会は法人化され、わりと熱心な地域で、町内や周辺にも外国人はとも多かった。会長や副会長が年で持ち回りとなるが、中には国際結婚をしている外国人夫婦で免除されている人たちもいた。日本語がまだあまり話せないならわかるが、そういうわけでもなかったのに、今でも疑問に感じる場所がある。

どうして町内会に入ろうとしないかという点について。私の町内会はけっこう仕事が多く、与えられている役割も多い。私が会長をした時、隣の会長は50代の独身の男性で親の介護をしていたので、夜の会議や、週末の活動は彼にとって負担になっていた。また会長年の翌年も、決まった仕事があり、2年役割が続くことになる。日本人でも大変に感じるのに、外国人もそう感じる人は多いと思う。日本人も外国人も入りやすい町内会づくりが大切だと思う。

次に、日本語支援について、以前いた市国際交流協会では日本語が全く分からない外国人の生徒に通訳のボランティアスタッフとして、小学校・中学校に出向き、生徒の側で授業の補助を半年続けたこともあった。静岡市に来てからも、何度か学校から依頼があって行ったが、わりと必要な時のみに限られた通訳や、日本語が全く分からない生徒のところへ行くのは数回だけだったので、意味はあるけど、こういう制度でいいのかと感ずるところもある。静岡市には古くから住んでいる外国人もけっこう多いので、同じようにいなくても、人材をうまく活用していけたらいいと思う。仕組みがまだ出来ていないので、そこを整える必要がある。

○小田委員

日本語学習について市内全てではないが、静大の学生団体「ONES」が依頼のあった学校へ行き、

にほんごがくしゅう しえんかつどう
日本語学習の支援活動をしている。

つぎに、ちいきにすんでいるがいこくじんをどうしたら活かせるのか、またどうしたらそのきっかけをあたえることができるのか。がいこくじんじりつで自立するためのきっかけにもなるかもしれない。ただ行政にあれやこれやをやってほしいとようきゅうするのではなく、がいこくじんにもほんごをおぼえたり、じりつをしなければいけない、それぞれがせいゆつするためにはどりよくひつようで、それはだれでもどのくにでもせかいきょうつうでがいこくをすこと。わたしたちはそのきっかけづくりをし、サポートすることができたらいいと思う。

おうかわふくかいちよう
○王川副会長

しずおかすにたばらく経つが、こくさいこうりゅうきょうかいやにっちゅうゆうこうきょうかいにたずさたくさんひとであまなことはほんとうにおおかった。よしのだんたいについてむかししじりつのようなボランティアだんたいを支援し行政でも何かサポートできたらいいと思う。

しきょういおお つうきゅうにほんごきょうしつしやうがいがくしゅうせつとうおこなく3区で3か所と限られている。もっとおおくのばしょでひらくことができれば、いろいろなせいとをサポートできると思う。

つちやかいちよう
○土屋会長

いろいろいけん
色々な意見をありがとうございました。

それでは、じかんになりましたので本日の議事を終了させていただきます。